

## 流行性耳下腺炎（おたふく風邪）の発生動向について（沖縄県）

### (1)どんな病気ですか

- 2～3週間の潜伏期を経て、片側または両側の耳下腺・舌下線の腫脹や発熱を特徴とするウイルス感染症です（ムンプスウイルス）。
- 通常、1～2週間ほどで軽快します。耳下腺等の腫れで食事がとりにくくなったりします。
- くしゃみや咳などの唾液を介してヒト→ヒトへ感染します（飛沫または接触感染）。
- 3歳から6歳頃の子どもに多く発症し、感染力はかなり強いといわれています。また、3割程度に不顕性感染（感染しても症状がでないが、感染源となりうる。）があります。
- 合併症として、無菌性髄膜炎や睾丸炎、卵巣炎、難聴などがあります。

### (2)定点あたり患者報告数(県・全国)の推移(2001-2016年)

これまで、沖縄県では、ほぼ4年おきに冬から春にかけて流行が見られ、2014年秋頃から2016年秋頃までの約2年間、おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）が流行しました。

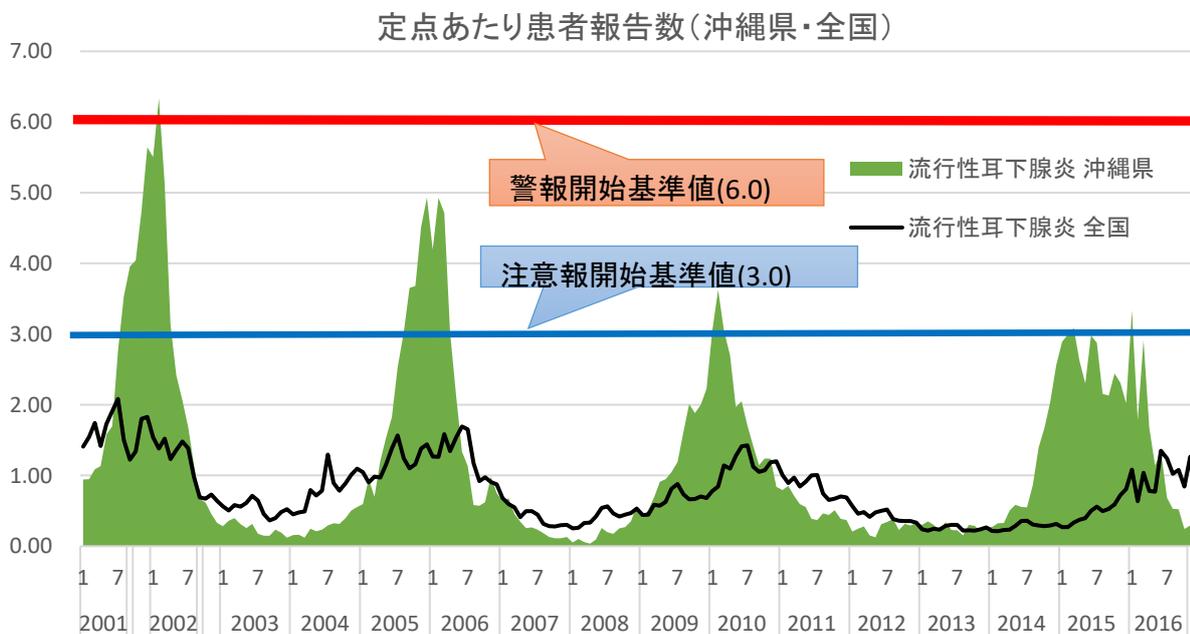
今回の流行は、これまでの流行曲線と異なり、ピーク値は低いものの、全国値を超過する期間が長期化しました。

2001年以降の流行の概要は以下のとおりとなっています。

〔2001-2002年〕コザ・石川保健所管内八重山保健所管内で流行（8月から4月、約9ヶ月）。

〔2005-2006年〕8月から中南部中心に注意報、11月には宮古保健所管内で広がる。  
翌年4月に終息（約10ヶ月）。

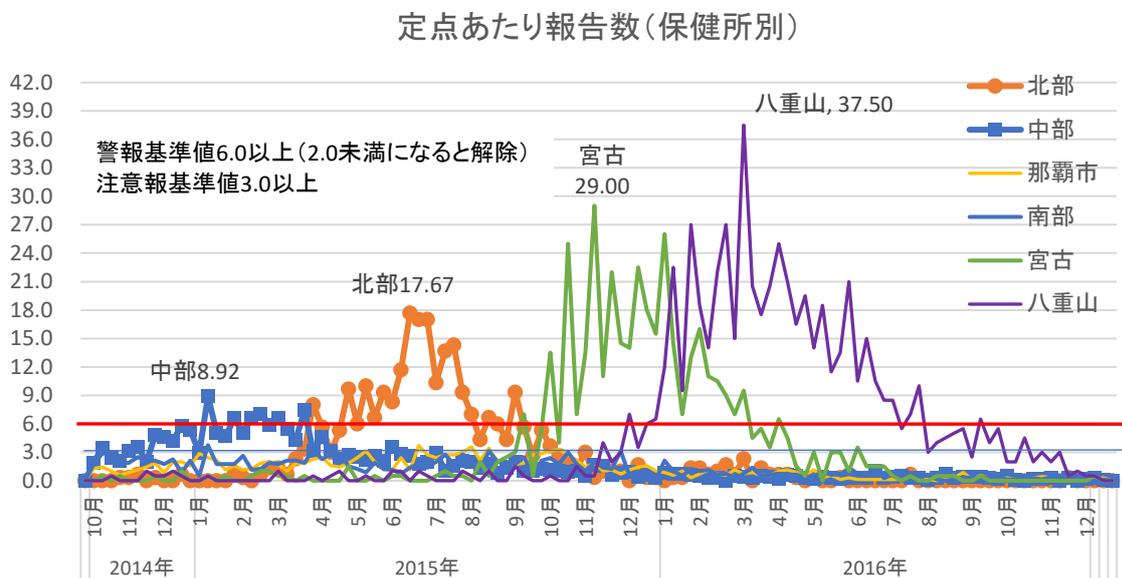
〔2009-2010年〕6月頃から増え始め、8月には南部保健所管内で注意報レベルに達する。  
年明け1月から6月まで南部地域（南部保健所管内で警報、中央保健所で注意報）で流行（約11ヶ月）。



### (3) 定点あたり患者報告数(保健所別)の推移(2014年10月-2016年12月)

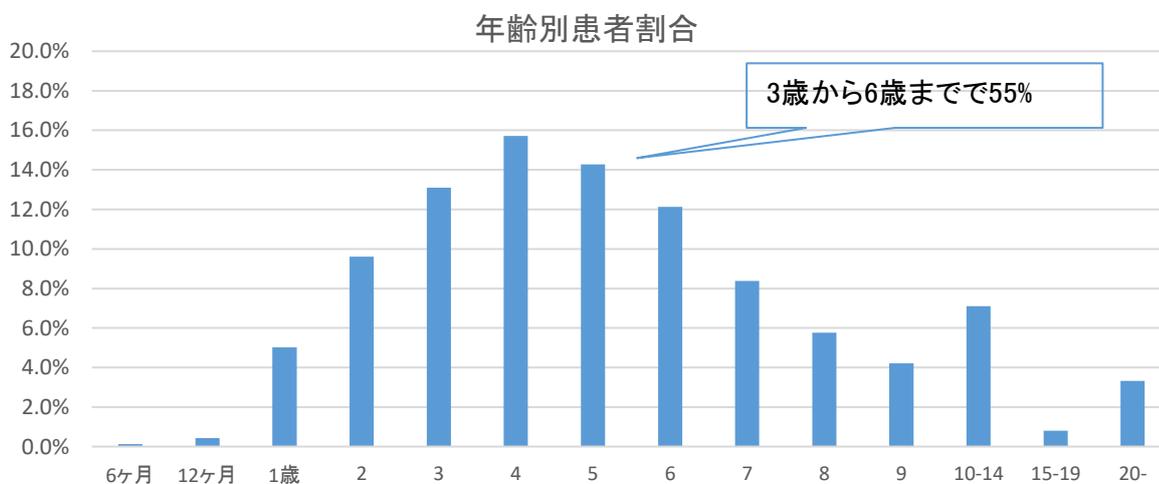
今回の流行では、県全体で見ると、散発的に注意報レベルに達する程度でしたが、保健所単位で見ると、地域を変えつつ断続的に警報レベルに達した地域がみられ、警報レベルに達した地域があった期間は、98週連続(2015年第2週から2016年第46週)に及びました。

特に八重山保健所管内では、50週連続(2015年第50週から2016年第46週)で警報レベルにありました。



### (4) 年齢別患者割合(2014-2016年)

今回の流行の患者年齢別では、4歳をピークに、3歳から6歳の子どもに多く発生していました。



### (5) 治療及び予防について

治療は、対症療法が主となります。

効果的な予防法としては予防接種が有効で、日本小児科学会では、1歳と小学校就学前の2回接種を推奨しています。

おたふくかぜワクチンの予防接種は、任意接種であり費用がかかりますが、一部の市町村では、接種費用の助成を行っているため、居住している市町村窓口にて御確認ください。